

## 東電、「三筋山周辺の風力発電を推進する」

東伊豆町の議会全員協議会に5月12日、東電、ユーラスの社員2名が出席し、「三筋山周辺に21基の風力発電機を設置する」方針を説明した。東電が1500kWを11基、ユーラスエナジー社が1670kWを10基、これを東伊豆町に3基と河津町に18基に分けて立てる計画である。

これまで住民から疑問や反対の声が挙げられ、とりわけ地元の入谷区では総会で9割の住民が「反対」を決議していたので、計画が一時は中止するかにみえた。

しかしその後、となりの河津町が全部を受け入れる、と表明したので事態は一気に進展した。どうせ河津町に作られるなら、少しでもこちら側に立てさせ「山焼き協力金」を得ようとする思惑が出て、入谷区の定時総会で「賛成」となり、ここに稲取の全区と町が計画を認めることとなった。

これをもって地元住民の同意を得た、とする東電・ユーラスの風車事業は正式にゴーサインを出したわけである。

これまで自然保護団体から出されていた環境アセスメントでの猛禽類の存在や、絶滅危惧種の植物などへの危惧は「影響なし」の一点張りだった。また地元住民グループの水源、湿原に影響がある、という指摘にも「調査したが問題はない」とした。景観破壊にも「むしろ観光資源になる」と強弁する始末。最後には地球温暖化防止のため、国策だからと開き直ったのだった。来年には着工し、2年後の平成22年には完成をみたい、といっている。

私たち東伊豆町の風車問題を考える住民の会は、この無謀な自然破壊は断じて許すことが出来ず、引き続き反対し、河津町への申し入れを行った。今後、伊豆半島に91基もの風車を建てる計画が進行している。この事を伊豆に住むすべての人々に知って頂き、力を合わせて美しい伊豆の自然を未来に引継いでいきたいと考える。